JOURNAL OF KYOTO PRINTING INDUSTRY ASSOCIATION

VOL.664

京都府印刷工業組合

秋号
AUTUMN ISSUE

京印季報
Kyoinkiho

2023 AUTUMN

Special Contents:

秋季特別企画

特別座談会
「下支部『波平会』『カツオ会』の活動趣旨と、
これからの組合・支部運営について」

illustrated by Masahiko KIMURA

目次と巻頭言

2023 AUTUMN

1　巻頭言／専務理事　荒川昌浩
2　秋季特別企画　特別座談会「下支部『波平会』『カツオ会』の活動趣旨と、これからの組合・支部運営について」
6　ダイバーシティ勉強会開催
6　納涼ビアパーティー開催
7　オフセット印刷学科講習開催
7　技能検定（オフセット印刷作業）実技試験実施
7　令和５年度前期　技能検定合格者発表（オフセット印刷作業）
8　委員会だより／共済委員会
10　組織委員会
環境労務委員会
12　支部だより／中支部
下支部
13　会合だより／京都青年印刷人月曜会
14　７月・９月定例理事会開催概要
14　よしみ散歩 ～印刷会館周辺地域のご紹介～
15　組合員 NEWS
15　事務局からのお知らせ
16　印刷会館利用状況
16　組合日誌
17　最近の事業者向け補助金・助成金情報について
18　パートナーシップ会員異動
18　表紙作画者紹介
18　編集後記

https://kyoinko.jp/

SDGsに代表されるように、自然環境破壊について世界中で叫ばれるようになってかなりの時が経っていますが、その効果を感じるどころか環境悪化を思わせる猛暑の夏となりました。

最近では自動車のEV化が加速していますが、果たして本当にEV化が環境にやさしいのか？CO2は出さないけれど電気を作る為に原子力発電所を増やさないとダメなんじゃないの？政治的な戦略じゃないの？いろいろな意見もあり見極めが難しくなってきていますが、私個人的には五感に伝わるものが無く「EVは楽しくない！」と言うのが本音です。私の好きな所ジョージさんが邪魔くさい事こそが楽しいとTVで話されていましたが、少し手間がかかったり、不便だったりする方が楽しく実は環境にやさしいのではないかなと思っています。

とは言え、我々も環境に対応した用紙や材料使用が必須となってきています。

そのような中、令和６年に労働安全衛生法の新たな化学物質規制改正で、業界で使用されている溶剤の取り扱いについても大幅に変更されます。印刷業界では溶剤問題で暗いイメージを持たれてしまった苦い過去があるので、このことを教訓として法に沿った素早い対応が必要となってまいります。当組合の環境労務委員会では、この号が発行される頃には労働安全衛生法の改正について詳しく解説するセミナーが開催されますので、複雑になりつつある法改正をしっかり理解するためにも組合員の皆様にはぜひ受講して頂き、人と環境にやさしい業界として進むべき方向へのヒントとなりますようお役に立てて頂き、人材不足の今、求職者から選んで頂ける業界になるよう願ってやみません。

京都府印刷工業組合
専務理事　荒川　昌浩

2023
秋季
特別企画

特 別 座 談 会

「下支部『波平会』『カツオ会』の活動趣旨と、これからの組合・支部運営について」

下支部会員の現役世代(親の世代)と次世代(子の世代)のどちらにも交流の機会を設けるという趣旨で企画された「波平会」「カツオ会」の活動は、近畿地区印刷協議会や全印工連の役員方にも報告され、「若い世代に組合参画を促すもので持続可能な組合、支部運営に結び付く」として高い評価を得ています。

本座談会では、発案者の藤井副理事長・下支部長より資料を通して発足の思い等を聞かせて頂いた後、京都市内各支部の親の世代より笹原理事長、藤井副理事長を含め５名、子の世代より４名の方々にご参加頂き、組合役員の世代継承や組合・支部運営の未来像についてディスカッションして頂きました。

今回の特集では、本座談会の要旨をご紹介します。是非ご一読下さい。

出席者

笹原あき彦氏
文屋秋栄㈱ 代表取締役
京都府印刷工業組合 理事長
東山副支部長

川勝　一清氏
商報社カワカツ印刷㈱ 代表取締役会長
京都府印刷工業組合 理事・上支部長

川勝　敏史氏
商報社カワカツ印刷㈱ 代表取締役社長

爲國　晃雅氏
㈱ティ・プラス 営業部

田中　正雄氏
㈱田中印刷 取締役会長

田中　辰法氏
㈱田中印刷 代表取締役社長

髙橋　東作氏
朝陽堂印刷㈱ 取締役会長
京都府印刷工業組合 副理事長

髙橋　洋平氏
朝陽堂印刷㈱ 代表取締役社長

藤井　康央氏
共栄印刷紙業㈱ 専務取締役
京都府印刷工業組合 副理事長・下支部長

司会・進行

谷口　　力氏
谷口紙工㈱ 代表取締役
京都府印刷工業組合 理事・広報委員長

後列左より 谷口力氏、田中辰法氏、髙橋洋平氏、川勝敏史氏、爲國晃雅氏、事務局吉見、事務局長谷口 ／ 前列左より 藤井康央氏、田中正雄氏、笹原あき彦氏、川勝一清氏、髙橋東作氏

座談会出席者

座談会出席者

（特別座談会要旨 発言者の敬称略）

■はじめに

司会（谷口）：進行を務める広報委員長の谷口です。本日はよろしくお願いします。

下支部会員企業の二世代それぞれの交流事業である「波平会」、「カツオ会」が、若い世代が組合活動に参加する契機になると近畿地区や全印工連の役員から高い評価を得ています。本日は、京都市内の各支部より、親の世代５名、子の世代４名、計９名の方々に参加頂き、両会の活動趣旨や組合・支部運営の現状と課題について忌憚のない話を聞かせて頂きたいと思っています。初めに笹原理事長より開会のご挨拶をお願いします。

笹原：ご多忙の中お集まり頂き御礼申し上げます。㈱ティ・プラスの爲國光俊様はご予定がありご参加が叶いませんでしたが、３組合員の社長様と会長様にご参加頂きとても感激しています。物事を引き継ぐにはバトンを渡す側、受ける側の両方に強い気持ちが備わっていなければいけません。どのようなお話を聞けるのか楽しみです。

司会：続いて両会の発案者である藤井副理事長・下支部長より一言頂戴したいと思います。

藤井：本日親子でご出席頂いた朝陽堂印刷様は、先々代の髙橋督治様から切れ目なく組合並びに青年部の運営に携われておられます。そのあたりの秘訣を是非聞かせて頂きたいと思います。冒頭で波平会、カツオ会を褒めて頂きましたが、実情を述べると本会へのお誘いに対して1/3の会員がまだ未返事です。本座談会を通して活動趣旨にご理解下さる会員が増え、組合や支部において円滑な世代継承ができればと思っています。

司会：それでは自己紹介を兼ねて皆様のプロフィールを聞かせて下さい。

田中（辰）：田中印刷の代表取締役社長を務める田中辰法です。社長に就任して３年余りです。「カツオ会」の世代ですが、青年部の月曜会とともに組合の複数の委員会にも参画しています。

田中（正）：田中印刷の取締役会長を務める田中正雄です。辰法の父親で波平会の世代です。事業を引き継いだのは年齢と体力的な問題、そして70周年という会社の節目を迎えたからです。交代する前に２度大きな手術を受け、以降は徐々に業務を引き継いで来たので比較的スムーズに承継できたと思います。

髙橋（洋）：朝陽堂印刷の代表取締役社長を務める髙橋洋平です。カツオ会の世代で６年前に会社へ戻りました。それまでの13年間は東京や大阪で勤務していました。京都に戻り、業界がどのように変化しているのか手探りの状況でしたが、青年部の月曜会に加入することで会員仲間や親組合の方々と話しをさせて頂く機会が増え、補助制度の活用策や仕事の進め方・考え方を学びました。

髙橋（東）：朝陽堂印刷の取締役会長を務める髙橋東作です。洋平の父親で波平会の世代です。私も40歳を過ぎてから家業に戻り、70歳のときに社長を洋平に継ぎ会長に就任しました。組合は昨年130周年を迎えましたが、当社は祖父も含めて代々の代表者が様々な形で組合活動に参加させて頂き、勉強させて頂いています。

川勝（一）：商報社カワカツ印刷の代表取締役会長を務める川勝一清です。私は24歳のときに父が急逝して仕事を引き継ぎました。以降、様々な波があり風があり、思うように真っすぐ前には進めませんでしたが、どうにか結婚して二人の息子を授かりました。何れ継いでくれると思っていましたが、長男の敏史が「印刷業に就きたい」と言ってくれたときはうれしかった。そこで知人の会社（宮崎県延岡市）に３年８か月の間、勉強に行かせました。戻るときは結婚相手を連れて帰り、やがて二人の息子ができ、２年程前に社長を引き継ぎました。

川勝（敏）：商報社カワカツ印刷の代表取締役社長を務める川勝敏史です。父は私が中学生の頃から理事を務めていたので、組合については父に任せ、私はお客様など対外的な付き合いを受け持っています。今後は組合についても徐々にお手伝いできればと考えています。

爲國：株式会社ティ・プラスの爲國晃雅です。皆様と違い、私自信はまだ一介の営業部員の立場です。カツオ会に初めて参加させて頂いたときは皆様から快く迎えて頂き感謝しています。今後も積極的に参加できればと考えています。

司会：私は下支部役員の立場から波平会とカツオ会に参加しています。月曜会の会長も務めていますが、月曜会も会長候補者が少なくなり、課題はどこも同じように思います。カツオ会、波平会の取り組みを通して組合の活性化に繋がっていけばよいなと思っています。

座談会出席者

座談会会場

■「波平会」「カツオ会」について

司会：これまでに波平会を２回、カツオ会を１回開催しています。波平会、カツオ会に参加された方はご感想を、参加されていない方には両会への率直なご意見をお聞かせ下さい。

髙橋（洋）：カツオ会に１度参加しました。参加することで新たに諸先輩方と面識ができ、その後は気軽に相談できるようになりました。

田中（正）：組合も企業も事業承継が必要ですが、代表者の名前を変えるだけでなく実態が肝心です。私も交代後は辰法に任せています。個人的には会社の経営者＝組合担当者であるべきだと思います。一方で、今まで組合に尽力してこられた方に対しては、交流会に留まらない、役員を通して組合情報を伝える場が必要だと思います。

司会：そうしたことも念頭において両会を立ち上げました。他の支部にも広がっていけば、若い世代の方も組合に参画しやすくなります。

川勝（一）：支部活動は難しい。参加してくれる会社が少なくなった。以前は組合員でなければ融資を受けられない時代がありましたが、今は組合にメリットを感じにくいのかもしれません。

藤井：私も川勝さんとよく似ている境遇で、25歳のときに父親が亡くなり、業界活動については兄が紙工協組、弟の私が印刷工組の担当になりました。最初に参加したのは下支部会ですが、当時の支部長や組合三役の次の世代の方があまり組合に参画しておられない。どうしてだろうと熟慮した結果、次世代の方にも交流の場が必要ではないかとの考えに至りました。

司会：爲國さんはお父さんが組合活動されてることを知らない中でカツオ会に参加して頂きましたが、その後、組合活動について話す機はありましたか？

爲國（晃）：カツオ会について父は、同じ業界の次世代の人達と繋がりができれば心強い関係になるから参加した方がよいと背中を押してくれました。私自身、業界のことを知らない状態で飛び込んできたので将来的な不安があったのですが、同じ境遇の方が身近にいると心強く感じました。具体的なメリットまでは話せていませんが、メンタル面ではとても助けられると聞いています。

藤井：親の後押しはとても大事だと思います。だからこそ、親の世代の方に気持ちよく後押ししてもらうために、親の世代の方にも組合と関わり続けられる場が必要だと思います。

笹原：若い方に承継された瞬間、組合との接点が無くなると、その方はすごく寂しい思いをされると思います。組合には新しい血、若返りも必要ですが、長年尽力された方にもこれまでと違う形で組合に携わることができる。そのような仕組みがあればよいと思います。

藤井：月曜会は印刷関連企業の加入を通して後継者以外の方も参加できるようになりました。新しい情報が入り良かったと思いますが、一方で組合内の世代継承が滞っているように感じます。波平会、カツオ会の目的を支部や組合の世代承継とするなら、５年後、10年後の状況を見て更なるブラッシュアップが必要になるかもしれません。

田中（辰）：私は27、28歳の頃に藤井副理事長から誘われ月曜会に加入しました。以降、京都だけでなく全国の勉強会、交流会に参加させて頂き、各地に同世代の仲間ができました。若い時からの仲間なので困ったときに助けてもらうこともあります。今振り返ると誘って頂いて本当によかったと思います。現在、組合の三つの委員会に参画していますが、承諾したのはお世話になった人から声を掛けて頂いたからです。波平会、カツオ会のような交流の場を通して常日頃からコミュニケーションを深めることはとても大事だと思います。

川勝（敏）：波平会、カツオ会など下支部会の活動は活気があって良いと思います。私も最近になり京都印刷協和会に加入させて頂き、同年代の業界仲間との交流も増えだしました。組合活動は父親の担当ですが、何れはお手伝いさせて頂く心づもりでいます。

髙橋（洋）：爲國さんにお伺いします。カツオ会に誘われた時、即決されたましたか？それとも迷われましたか？また、決断されたのはお父さんの勧めからでしょうか？それとも私達の世代からの誘いがあったからでしょうか？

爲國（晃）：とても迷いました。社長の後押しもありましたが、この業界で生きていくためには同世代の同業者と繋がりがあった方がよいという私自身の考えもありました。しかし、同世代の人たちが皆同じ考えではないと思います。

■これからの、持続可能な組合・支部運営

髙橋(東)：どうすれば組合役員をうまく世代継承していけるのか。各々後継者の年齢やタイミングなど諸事情があり一概にはいえません。何より波平世代の方の後押しが大事だと思います。カツオ会だけでなく波平会を作ったのは意味のあることだと思います。

髙橋(洋)：父がお世話になってる組合なので、会長が退いたら当然自分がという気持ちはありますが、活動の全容がわからない中では踏み出しにくい。時間が割かれるのではないか等デメリットに意識が向くからです。組合の運営、役員の役割、会社へ還元できることもあるなど、全体像が理解できれば視点も変わるように思います。

司会：皆様の話をお聞きしていると、カツオ会は下支部に留まらず、もう少し広げていってもよいのかなと思いました。他の支部の同世代の人と繋がることで顔を覚えてもらい、組合活動にスムーズに入っていけると思います。波平会は、組合へのご意見番的な役割で参画して頂くのが理想的と思いました。支部長間の理解が深まれば実現可能だと思います。

髙橋(洋)：カツオ会は継続的な活動が必要だと思います。半年に１度は開催して、若い人が組合に参画するきっかけとなる会であり続けて欲しい。同時に、お誘いしても踏み出してもらえなかった人へのフォローも必要だと思います。

司会：事務局からもご意見を聞かせて下さい。

事務局：活発な支部活動が、回りまわって会員企業様や組合の活性化にも必ず結び付くと思います。下支部さんが率先して取り組まれている二世代への並行した交流活動を参考にさせて頂き、組合や他支部の活性化策として事業の中で活かすことができれば良いなと思っています。役員各位や各支部さんとご相談しながら一緒に考えて行きたいと思っています。

藤井：余談ですが、近畿地区の役員が集う近畿地区印刷協議会では、よく「組合に入るメリットは？」と提起されます。20人位から話を聞きましたが、多くの人が１番目か２番目に「人とのパイプ」や「コネクション」を挙げられます。有益な情報も人との繋がりがないと入って来ません。ネットワークを構築できるということが、今の組合が有する最大のメリットではないかと思います。

髙橋(東)：私も最初は京都印刷協和会への参加を通してネットワークができ、その後の組合の活動にも役立っています。何より参考になったのは、全国大会で本部団体の役員から今後の業界情勢等を直接聞くことができたことです。自社に置き換え課題を整理する上で大いに役立ちました。

司会：若いカツオ世代に、組合に入ると横の繋がりだけでなく全国の有益な情報も得られるというメリットをきちんと伝えなければいけない。広報委員会の新たな課題だと思います。本日は貴重なご意見を沢山聞かせて頂きありがとうございました。今後の組合や支部活動に活かしていきたいと考えています。最後に髙橋副理事長より総括をお願いします。

髙橋(東)：藤井副理事長・支部長から初めて波平会、カツオ会の企画を聞いたときは、新たに交流の場ができた位に考えていましたが、活動を続ける中で、組合や支部が直面している課題が明確になりました。しかし、本日の座談会の中で少しずつ解決の糸口を見出せたのではないかと思います。そしてそのことを意識して活動を続けることにより、藤井副理事長・支部長の問いかけた課題が支部役員、組合役員共通の問題意識として広がり、共有することができるのではないでしょうか。本日はありがとうございました。

対談を終えて

副理事長・下支部長　**藤井　康央**

私は組合青年部「京都青年印刷人月曜会」に加入して会長も経験し、当座談会に出席して頂いた田中正雄さんや元理事長の瀧本顧問、当時珍しかった員外の松村会長に可愛がって貰い、今でも仲良くして頂いていると同時に、そのご子息とも交友関係にある立ち位置にいます。元々、月曜会は数人を除いて組合員企業だけで組織され、各々の会社と印刷組合の承継の役割も兼ねていたと思いますが、時代と共に構成と使命は変わり、今も進化しています。

また私自身、諸事情もあり若くから下支部に参加し、長く活動をしている中で、歴代支部長や組合重鎮のご子息(カツオ世代)を組合内で顔を見ないという不思議さも感じていました。

先輩たち(波平会)後輩たち(カツオ会)が印刷組合内で共存するのは簡単ではないけれど、その二世代が楽しめる場、活躍出来る場を設えるのが私の使命と思い、両会を作りました。

会名については、下支部役員が全員で名称案を出し合い、出世魚にちなんだ候補が沢山提案されましたが、皆が知っていて五感的にも響くサザエさんの「波平・カツオ」に決めました。

石油ショック、活版から平版、アナログからデジタル等、波平世代が直面した変化への対応は、これからのカツオ世代に求められる変化以上だったかもしれません。会社内や家庭内では感情が先走るケースもあるでしょうが、その語りを融和させるのも印刷組合の役割かもしれません。

両会を数回開催しましたが、各々、予想を超え楽しんでおられます。今後は、下支部の枠を超えて京印工組全体に広がり、また、波平世代とカツオ世代の交流など、その考えを近畿地区や全国にまで波及できればと思いますが、それは次世代の方に託して、発足の理念がぶれることないようにオブザーブしていき、この動き自体が各組合員企業や印刷業界に寄与することを望むばかりです。

(文責　編集委員会)